

令和2年度
宮城県仙台二華中学校 入学式

校長式辞

例年よりも早い桜前線もみちのく路まで北上し、校庭の桜も満開を迎え、うららかな陽ざしに、春の訪れを感じる今日この頃であります。

本日は、宮城県仙台二華中学校の令和2年度の入学式を迎えることができました。ただいま入学を許可いたしました、105名の皆さん、入学おめでとうございます。教職員・在校生を代表して心から歓迎申し上げます。本来であれば、体育館を会場に、保護者の方にも隣席をしていただき、PTA会長・同窓会会長からご挨拶をもらい、関係者全員でお祝いをしたかったのですが、新型コロナウイルス感染防止の観点からこのような異例の入学式となりました。しかし、新入生を二華中学校・高等学校全体でお祝いする気持には変わりはありません。

皆さんは、今日この日からこの連坊の学び舎において、新しい学校生活がスタートします。仙台二華中学校・高等学校は、明治37年、その母体となる「東華女学校」が創設されて以来今年で116年目を迎えます。開校当時の建学精神は、明治・大正・昭和・平成・令和へと激動の時代を懸命に駆け抜く先輩達によって引き継がれ、彼らの母校への強い思いが、良き伝統となり今日に至っています。

皆さんも、しっかりとこれまでの本校の歴史と伝統の重みを受け継いでいただくと共に、これからの新しい未来を皆さん自身の手で切り拓いていただくことを願っています。

さて、ここで、二華で学ぶにあたって敢えて二つの注文を行います。

まず一つ目、「幅広く学べ」ということです。二華の学びには各教科科目の学習の他に様々な教科横断的なプログラムが用意されています。そして、令和3年度からは、東北の公立高校では初となる国際バカロレアコースがスタートします。生徒会活動、部活動、ボランティア活動も充実しています。教科の学習にとどまらずに限らず幅広い学びに取り組んでいただきたいのです。

21世紀はグローバル化の時代と言われ20年が経ちました、地球環境、生態系の破壊の危機、地域紛争、テロ、金融危機といった問題など、予測のつかない困難な課題が我々人間や国家、人類社会を襲うといわれてきました。先ほど触れた新型コロナウイルスへの対応など、今まさに私たちの身の回りに迫っている課題であると実感できているのではないのでしょうか。

このような課題に対しては、自己中心・自国中心・強者中心の生き方や社会の在り方ではなく、多様性と自他との違いを認め尊重しつつ、相互信頼と連帯・共同の輪を広げていくことのできる生き方・考え方や社会の構築が必要です。言い換えれば民族・文化・宗教や信条の多様性と自他との違いを理解し、自律性を尊重し、利害・理念の対立や宗教・思想・信条

の違いを乗り越え、安全で豊かな社会の持続的な発展と全ての人々の安心と福祉の向上を図っていくことが重要となります。

この課題に向き合うためには、知性では収まりきらない人間性と深い関わりがある情念や感性をはぐくみ、多様な表現力を身に付けたり、他人と共感できる心を身に付け、自分の生き方を振り返る潔さ、善悪の判断を峻別できる判断力など幅広いいわゆる教養が必要です。

この教養を身に付けるためには「幅広い学び」がぜひ必要です。皆さんの直接の進路に関わる科目だけでなく、二華で用意された全ての教科科目、そしてシンキングメソッド、グローバルスタディーに取り組んでいただきたいと思います。二華での「幅広い学び」は、皆さんが将来取り組むことになる、予想のつかない課題、答えがひとつではない複雑な課題の解決のために必要な力やヒントを与えてくれるはずです。

ヨーロッパ中世の大学は7つの自由科目を設定し、学問の基盤とされていました。文法、修辞、論理、代数、幾何、天文、芸術を幅広く学び、リベラルアーツの語源になっています。基本的には、伝統や因習偏見に囚われることなく、また他者の意見やマスメディアを含む権威、権力の見解・圧力に惑わされ制約されることなく、自由かつ論理的・批判的・創造的に思考・判断・行動することができる「自由な精神・知性」の形成を志向するものとも言えます。

幅広く学ぶ、例えば芸術や哲学や体育、ボランティア活動、研究活動など、幅広く学び、幅広い教養を身に付けることで21世紀が抱える、地球規模の課題、答えが見つからない複雑な課題の解決に必要な力を身に付けることができるはずです。二華でのぜひ幅広い学びを心がけてください。

二つ目、「紳士・淑女たれ Be a gentleman, be a lady」ということです。二華には細かいいきまりごとは必要ないと思っています。行動の基準になるのは「紳士・淑女たれ Be a gentleman, be a lady」で十分事足りるはずです。

紳士・淑女は、自分の行動や振る舞いに対して見通しをもって、結果を予想し、その結果に責任を持つことが求められます。本校の校訓「進取創造」とはまさにそのことを言い尽くしているはずです。やるべきことは自分で見つけて、自発的に自分で取り組む。そこには自分をコントロールする強い意志も必要になります。結果に責任を持つということは、善悪の価値判断や道徳的な心も兼ね備えなければなりません。

紳士・淑女は、他を思いやる気持ちを忘れてはいけません。人の不幸を見て自分のこととして同情し、心を痛めると同時に何かをしてあげたいという、弱者に対するいたりや思いやりの心と云うことができます。人としての最高の徳とも言えます。本校二つめの校訓「至誠貢献」がまさにこのことであり、誠実な心を持って、社会に貢献しようということに繋がります。

紳士・淑女は、立ち振る舞いについても、周囲の人々に不快感を与えてはいけません。言葉遣いや行動・服装についても周囲の人々に気を配り、好印象を持ってもらうことも重要だ

と思います。

二華には細かい決まり事は必要ありません。「紳士・淑女たれ Be a gentleman, be a lady」是非、世界で通用する gentleman、lady を目指してください。

最後に、これからの皆さんの学校生活は、人生において、最も思い出の深い大切な時期となります。今日の初心を忘れず、それぞれの夢や希望に向かって努力を惜しまず、悔いのない毎日であることを期待して式辞といたします。

令和2年4月7日

宮城県仙台二華中学・高等学校

校長 伊藤 俊